

子どもたちが、伝統的な言語文化に親しむために、どのような授業が考えられるでしょうか。

『わかる、伝わる、古典のこころ』（光村教育図書）などの著書があり、以前から古典の授業に取り組んでおられる小瀬村良美先生に、指導のうえで心がけたいことや、先生が実際に行った授業を紹介いただきました。

はじめに

古の人は日本の四季が織り成す花鳥風月の変化を楽しみました。長い時を経て受け継がれてきた「伝統的な言語文化」は、現代を生きる子どもたちの生活や言葉の土壌となっており、五七・七五調のリズムはもとより、初めて聞いた漢詩や古文にも興味を示す子は多くいます。一方で昔話を知らない子、伝統的な行事を経験したことがない子、季節感のない生活をしている子も多いと感じます。

「伝統的な言語文化」に親しむことは、子どもたちの言語生活を豊かにします。そ

のために、言語生活への広がり視野に入れ、子どもたちの生活の中の言葉につなげる実践を心がけたいものです。

今春からの教科書にはさまざまな学習材が収められました。高学年には、長年、中学校教科書に掲載されてきた古典が多く紹介されています。それらにふれるよさを再認識しましたが、中学校の先取りではなく、小学生の知識や言語経験で興味を示すものを選んでいく必要性もあります。それには、子どもたちの日常生活とのかかわり（季節行事など）や国語科以外の他教科との関連、学校全体の取り組みの視点も重要です。教科書だけに頼らず、年間計画の中に、どの素材を学習材として活かしていくか、地域ゆかりの素材を開拓できるか、積極的に挑戦していきたいところです。

学習活動としては、「音読」が重要視されています。「伝統的な言語文化」のもつ言葉や文のリズムや響きを味わうには、まずは読み親しむことが大事です。しかし「内容の大体を知る」「昔の人のものの見方や感じ方を知る」「三領域を通して指導する」

ことにも留意したいものです。ただ声に出して読むのではなく、多様な言語活動が求められています。言語活動の展開には、学習目標と子どもたちの実態と思考を活かしたプロセス重視の学習の構想が大切です。学びの広がりとしては、朗読や演劇などの発表活動、書き換え・創作などの表現活動、調べ学習活動などが考えられます。また、季節感を大切にした俳句や短歌などの学習は年間を通しての活動になります。こ

とわざや名文の音読や暗唱は、モジュールを活用した帯単元化の工夫をするといでしょう。扱う「伝統的な言語文化」に適した言語活動を取り入れることで、古典への「親しみ」をさらに実感させたいものです。

こせむら・よしみ

神奈川県生まれ。平塚市立横内小学校総務教諭。神奈川県立総合教育センター「国語力」育成に関する教材開発に向けた基礎研究。調査研究協力者などを務める。朝日新聞「花まる先生」等で「伝統的な言語文化」の実践を紹介する。

次ページより、私の授業をご紹介します。

授業1「絵かきうた」ブックを作ろう（二年）

1 単元について

「絵かきうた」は、一・二年の指導事項「昔話や神話・伝承」の「伝承」の領域です。子どもの生活や遊びの中で生まれ、伝承されている「絵かきうた」に、創作活動を取り入れることで、さらにその楽しさを実感させたいと考えました。

子どもたちは、歌いながら言葉をイメージして絵ができる達成感を楽しみ、自分でも調べる中で、歌の構成や言葉の特徴に気づき、創作への意欲をもつことでしょう。創作するには、文の構能力や語彙力が必要です。部分を変えたり、付け加えたりして伝承されてきたものを、自己流にアレンジすることで、楽しみながら、言語活動に取り組ませたいと思います。

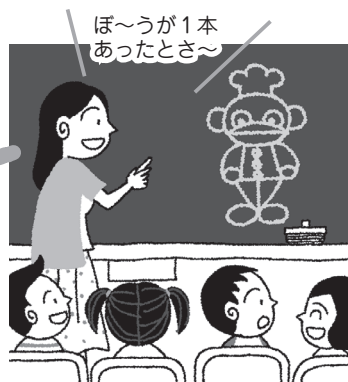
2 学習のねらい

▼絵かきうたの音読や書き換えを楽しみ、絵やとなえ言葉、独特のリズムに親しむ。
▼絵かきうたの順序に沿って、簡単な構成や、文のつなぎ方を意識し、表現する。

3 指導計画（全五時間）

第一時

絵かきうたに出会い、歌や絵を楽しむ。「かわいいコックさん」などの絵かきうたを紹介する。



第二時

絵かきうたを調べ、紹介する（家の人に取材、本やCDで調べるなど）。絵かきうたのひみつを見つける。



第三・第四時

絵かきうたを創作する。まず、数字・文字・形から考え、その後、順序を意識して創作する。



第五時

友達の創作した絵かきうたを交流で楽しむ。絵かきうたブックをつくる。



授業2「いろはかるた」で遊ぼう！（三年）

1 単元について

本単元は、かるた取りを楽しみながら、「いろはかるた」に興味をもち、読み札の文言の意味や取り札の絵の違いを読み解き、自作かるたで大会を開く活動です。

三・四年生の指導事項には「ことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと」とあります。かるたは子どもたちに身近で、ことわざの導入に適しています。子どもたちはかるた遊びが好きなので、自然にことわざへの関心を高めます。好きな札を自分の言語経験や生活に置き換え、独自の絵札に表現する中で、ことわざを身近な生活の中に取り入れ、使う力を育みたいと考えました。

2 学習のねらい

▼かるた取りを通して「いろはかるた」やことわざに親しみ、意味を調べる。
▼「いろはかるた」を自分の経験や生活に置き換えて読み取り、創作する。

3 指導計画（全四時間）

第一時 「いろはかるた」を使って、かるたをし、気づいたことを発表したり、好きな札を選んで紹介したりする。



数人のグループごとに、1セットの取り札を均等に広げる。読み手は教師で、一斉に各グループが同じ札を取り合う。子どもたちは真剣そのもの。

第二時

好きな札の意味を辞書で調べ、「選んだ理由」、「生活のどんな場面で使いたいか」を発表する。



読み札にも簡単な意味は載っているが、国語辞典等を使って、意味を調べる。

第三時

好きな札の絵を、自分の生活場面に置き換えて描く。友達どうして、描いた絵から読み札を当てる。



▲「かわいいこにはたびをさせよ」。旅をする人を、自分が飼っている犬に置き換えて描いた。

▼「あたまかくしてしりかくさず」。自分の生活体験の中から、猫の尻尾に置き換えて描いた。



第四時

かるた大会をする。グループで対戦し、代表を一人ずつ出して、取れたら交代とする。

授業3「リレー」春はあけぼの（五年）

1 単元について

五・六年生の指導事項には「昔の人のものの見方や感じ方を知ること」とあります。本単元では、「をかし」などの平安時代の言葉と現代との違いに興味をもたせます。平安時代の衣食住などの生活の様子は映像資料（デジタル教材「わくわく古典教室」光村図書）等を交えるとイメージが広がります。平安時代に生きた清少納言になったつもりで、自分の感じていることを「春はあけぼの」風に創作します。

2 学習のねらい

▼「枕草子」の語彙や独特のリズム、昔の人のものの見方や考え方に親しむ。
▼「春はあけぼの」の内容の大体をつかみ、音読や翻作を楽しむ。

3 指導計画（全五時間）

第一時 「春はあけぼの」の内容を確認し、音読する。「をかし・あはれなり」を使って、短文を作る。

第二・三時

「春はあけぼの」の型に合わせて、好きな季節を書く（ワークシート使用）。四人グループになり、テーマ（花・生き物・食べ物・行事など）と季節（春・夏・秋・冬）の分担を決める。

ワークシート

8の1 国語「春はあけぼの」作文（ ）	あなたの好きな季節は？	どんなところが好きですか？	下にはくしくしたり、理由を書いたりしよう。
教室の文庫本を合わせて、文を作ってみよう。			
好きな季節を清少納言になったつもりで、「枕草子」の文体で書いてみよう。			
①「うさぎのうさぎ」 ②「あはれなり」 ③「をかし」 ④「あはれなり」 ⑤「あはれなり」 ⑥「あはれなり」 ⑦「あはれなり」 ⑧「あはれなり」 ⑨「あはれなり」 ⑩「あはれなり」	好きな季節	好きな季節	好きな季節
①「うさぎのうさぎ」 ②「あはれなり」 ③「をかし」 ④「あはれなり」 ⑤「あはれなり」 ⑥「あはれなり」 ⑦「あはれなり」 ⑧「あはれなり」 ⑨「あはれなり」 ⑩「あはれなり」	好きな季節	好きな季節	好きな季節

第四・五時

グループ内で読み合って修正した後、グループごとに発表する。



4人1組のリレー形式で作ることにより、意欲や楽しさが広がる。

※子どもたちの意欲次第で、「うつくしきもの」「にくきもの」などの「ものづくし」への展開も可能である。

児童作品

テーマ「スポーツ」
春はつり。海でゆうゆうと魚が動き回るのはいつきづきし。（略）くらげがかかると、わるし。
夏は水泳。真夏の暑いときに、プールのすきとおった水の（略）泳ぐもをかし。
秋は陸上競技。風の中をビュンビュン走るのは、あはれなり。（略）ゴールテープを切るしゅんかんは、いっぺきにあらす。
冬はスキー。白いふわふわ雪の上をスキーですべりおる。（略）ころぶとわろし。